

## 「地産地消」 地域に根付く 成東に続き 『緑の風2号店』 東金にオープン

山武郡市農協では、地元で生産された新鮮な農産物や工夫をこらした加工品等を地域のみなさんに消費してもらうため、常設直売店を「成東」に開設してから1年半がたちました。この取組みについて普及センターでは、グレードアップ産地育成事業として位置づけ、農産物の作付や品質向上に関すること、食加工品の技術助言・適正表示等についての各種講習・個別相談会の支援を行っています。



常設直売店「緑の風」は、昨年4月25日に成東に開設しました。当初50名の会員は現在5倍の250名に増加しました。成東町を中心とした地域住民から、「新鮮・安い・安心」な商品として喜ばれ、火曜日を除く毎日270～300人の来客により売上也順調に推移し、本年は1億円を目標に活動しています。

販売金額からみた売れ筋商品は、御飯類、惣菜類、トウモロコシ、トマト、切り花、メロン、米、豆腐、卵、コンニャク等です。品数も豊富になり、昨年と比較すると2倍の242品目（普及センター分類）になります。



### トピックス

成東町の観光イチゴの直売シーズンの土・日は、地元の協力もあって1日の売上が1.5倍にも伸びます。

盆と暮は、かきいれ時です。盆前日の12日に開店以来最高記録の100万円を突破しました。

台風21号の影響で野菜等が品薄になりましたが、生産者の皆さんの努力により極端な売上の低下までには至っていません。

出口調査の結果では、商品の品質には75%の方が満足されていましたが、品揃えがやや物足りないと答えた方も33%いました。

成東店に次いで10月26日には東金店がオープンしました。今後更に店舗拡大計画があるようです。普及センターとしても農家の所得確保、更に直売を経営の柱とした経営体の育成にも努めて行きたいと考えています。

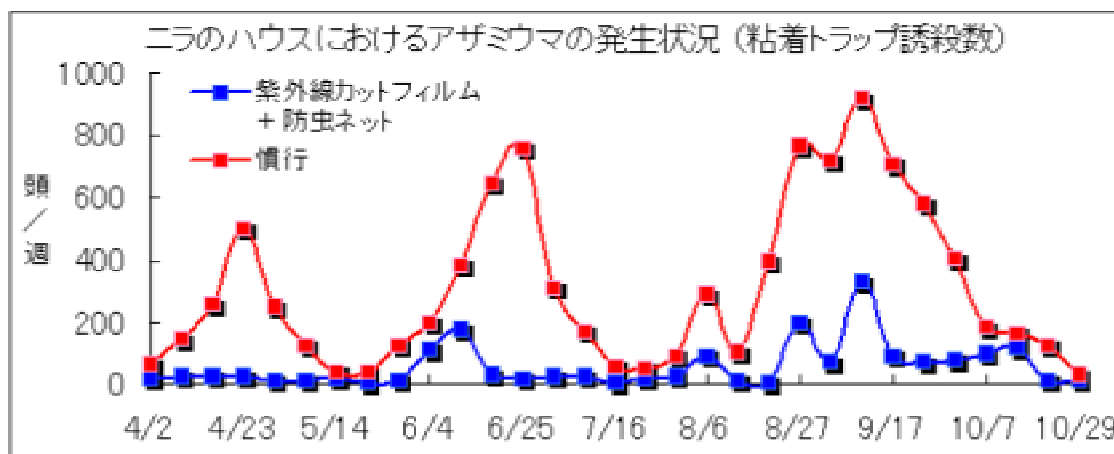
## 実践！ 環境に優しい農業

### UVカットでニラのアザミウマを防ぐ

ハウスに張るだけでアザミウマの被害を抑えることができる資材をご存じですか？ これは紫外線（UV）カットフィルムと呼ばれるもので、ニラのアザミウマにも効果のあることが確認されました。

#### 紫外線カットフィルムの効果

アザミウマやアブラムシは紫外線を感じて活動しています。紫外線カットフィルムを張ったハウスの中では真っ暗な闇の中にいるのと同じ状態になり、自由に活動できなくなります。このため被害も減るのです。また、白斑葉枯病（灰色カビ病菌）なども紫外線が増殖に必要なので、これらの病害の発生も抑えることができます。



表はニラのハウスでアザミウマの発生量を調査した結果です。防虫ネットの併用ですが、慣行のハウスに比べアザミウマの密度が長期間にわたって低く抑えられ、薬剤散布も少ない回数ですみました。また紫外線をカットすると作物の生育が旺盛になるため、調査ほ場では収量も1割ほどアップしました。

#### 使えない作物も有り

ニラでは有効な紫外線カットフィルムですが、すべての作物で使えるわけではありません。イチゴやナスでは着色に紫外線が必要ですし、ミツバチや一部の天敵も紫外線を頼りに活動するので、これらを導入している栽培では使うことはできません。

価格は一般の資材に比べ1～2割高いですが、張っておくだけで病害虫の発生が少なくなるなど、減農薬栽培には心強い資材です。現在は農ビ系に加えPO系のものも発売されており、今後の普及が期待できそうです。

# コシヒカリの品質 ・ 収量の低下は 高温による登熟不良！

今年には郡市内各地で収量 ・ 品質（1等比率平均52.7%）が落ちました。この原因は高温による未熟粒（乳白米 ・ 心白 ・ 腹白米）の発生です。特に8月7日から8月11日の34℃を越える高温と強風で「子実の発育が停止した」ことによる影響が大でした（表）。さらに19日の13号台風と20、21日の乾燥した強い風が稲の水分バランスを狂わせ倒伏につながりました。

異常気温と出穂後日数 2002年（横芝）			
8月	最高気温 （℃）	出穂後日数 （7月27日出穂の場合）	平均風速 （m）
7日	33.9	11日後	1.8
8日	35.3	12日後	3.0
9日	33.9	13日後	3.8
10日	33.8	14日後	3.4
11日	34.8	15日後	2.7

## 異常気象に強い米作りが検討課題

今年の生育には3つの節目がありました。

- 初期生育の遅れ（高温による徒長苗と田植え時の低温）
- 6月22日～27日の低温（20℃）による生育の停滞
- 8月の高温による登熟不良

この中で高温による登熟不良が大きな影響をもたらしましたが茎数確保後の中干しとその後に間断かん水による水管理を行ったところでは軽減できたようです。根の活力の有無がポイントでした。

## 基本にかえて

### 早期茎数の確保と無効分けつの抑制

- ・ 厚まきに注意した健全苗の育成と基肥のやりすぎに注意！

### 根の活力を落とさない水管理

- ・ 活着促進のため田植え後は浅水管理を。
- ・ 目標茎数の8割を確保したら速やかに中干しを実施。
- ・ 登熟期の水管理では、出穂前後の間断かん水を実施。特に高温時や乾燥風が吹くときは要注意！

### 土作り

- ・ 作土の確保は、15cm。近年作業の効率化が優先され作土が浅くなっています。

## 植木のカイガラムシ防除

植木類にカイガラムシの寄生が多くて困るという話をよく聞きます。手入れがいきとどかなくなると発生が多くなるのも一つの要因ですが、天敵であるハチ類やテントウムシの密度が下がってきているのではないかと指摘もあります。また、カイガラムシを放置しておくとう木が衰弱してしまいます。

ほとんど動かないムシなので防除は簡単はずですが、雨や外敵から身を守るため、ロウ質分泌物を出し、体表を覆います。これが防除の際にたいへんくせ者となります。そこで効果的な防除方法を紹介します。キーポイントは、カイガラムシの生育ステージに応じた薬剤防除です。

### 防除は鎧を着る前に

ロウ物質で出来た鎧は、薬剤を散布しても薬をはじいてしまいます。ですから体全体がロウ物質で覆われるまでの幼虫発生期の薬剤防除が重要です。

カイガラムシは、種類により若干異なりますが、その多くは4月下旬から7月にかけて幼虫が発生します。この時期を狙って集中防除すれば高い防除効果が得られます。また、幼虫が葉裏などへ移動して寄生する種類もありますので、葉裏にも十分に薬剤がかかるよう散布することも大切です。

幼虫発生期に散布剤として登録のある薬剤					
薬剤名	希釈倍数	つばき まさき	さんごじゅ・つげ つつじ・さつき	まつ さざんか	くちなし
ｽﾌﾟﾗｲﾄﾞ乳剤 40	1000～1500				
カダンK	-				
ｱｸﾃﾘｯｸ乳剤	500～1000				

### 冬期防除も効果的

越冬するのは、受胎した雌成虫です。この時期には、マシン油乳剤を散布することにより、越冬成虫の気門を油の膜で覆い、ムシを窒息死させます。冬期防除は、ムシの密度を下げる意味で重要な防除となります。

マシン油乳剤（97%以上）による防除法		
樹種	冬期	冬期以外
落葉樹	35～45倍	100～200倍
常緑樹	100倍	150～200倍

かいづかいぶき、もちでは、冬期散布後一定期間を経た時点で薬害を生ずることがある。

# 直売に向く野菜 ・ 花づくり

## 春播き野菜の準備は今から

本格的な冬を迎え露地での播種作業も一休みといったところでしょうか。今の時期を利用して1年間の栽培計画をたててみてはいかがでしょうか。

表は年明けから初春にかけて播種できる野菜です。

あくまで露地での栽培の目安ですので、トンネルやマルチ、べた掛けなどを使えば早播きも可能です。栽培暦を参考に色々な品目にチャレンジしてみてくださいはいかがでしょうか。

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
大玉トマト	●	—△		◆					
ミニトマト	●	—△		◆					
ナス	●	—△		◆					
ピーマン	●	—△		◆					
キュウリ		●	—△	◆					
カボチャ		●	—△	◆					
トウガン		●	—△	◆					
エダマメ			●	—△					
つるなしインゲン		●							
つるありインゲン			●						
ホウレンソウ			●						●
コマツナ			●						●
レタス	●	—△	◆						
コカブ			●						
ジャガイモ			●						

● 播種および植付け    △ 仮植    ◆ 定植    ■ 収穫期

注) 2、3月に育苗する場合は、電熱育苗床が必要になります。



## フレッシュ・ニューファーマー 山武町 檜木 美乃理・正宜さん

山武町横田でパンジーを主体とした花壇苗生産をしている檜木（うつぎ）農場の後継者 美乃理さん 正宜さん 姉弟を紹介します。



姉の美乃理さんは、就農して4年目になります。現在、父の花壇苗生産の手伝いをしています。就農直後から檜木農場で栽培されている15種類の品種選びをしています。彼女が情報収集し自分の感性で決めているそうです。就農を決めた動機は、学生時代の夏休みに、家の仕事を手伝った時に花栽培の楽しさを知ったことです。「今は栽培管理の仕事が楽しい！」と好きな仕事ができることに満足している美乃理さん。

弟の正宜さんは、就農3年目。温室の一部を借りて、自分で新規に導入したシクラメン2400鉢を栽培しています。鉢花の中でも栽培が難しいシクラメンですが、その品質は年々向上しています。「高品質なシクラメンづくりを目指したい」と語る正宜さん。このシクラメンが檜木農場の中心品目となるのもそう遠いことではないかもしれません。

普段から仲の良い姉弟ですが、お互いに相談やアドバイスをしあう関係でもあります。そこには姉弟ならではの良さや強みがあります。

二人とも役割と目標を持ちイキイキと働くフレッシュなニューファーマーです。